

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



人類に
奉仕する
ロータリー



第1243回 例会報告 (2017年1月19日)

講師例会

奉仕部門担当

■司会 / 大泉博典 S A A ■ロータリーソング / 我等の生業

■ゲスト / 国際ロータリー第2630地区 職業奉仕部門委員会 委員長 岩田勝美様

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

本日は、国際ロータリー第2630地区職業奉仕部門委員長の岩田勝美様に、職業奉仕の卓話をさせていただきます。岩田様が社長を務める岩田鉄工所は、精密機械の高い技術力を誇りますが、新たに航空機産業に参入しました。この鈴鹿にも、航空宇宙産業クラスター形成特区に指定された企業が3社立地しています。自動車産業と並び、中部地方の製造業をリードする産業として期待されています。トランプ米大統領の誕生に、右往左往している日本ですが、これからはこのように、高い技術力を誇る企業を有する地域から、直接、世界へつながり地域経済の活性化を図ることが必要です。まさに、職業奉仕の精神で活動する、我々ロータリアンの出番です。本日は職業奉仕のあり方について学びましょう。

■幹事報告 / 川岸憲博 幹事

- (1) 1月ロータリーレートは116円です。
- (2) 例会終了後、理事役員会を開催致します。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
1月19日	12名	12名	0名	100%

2週間前の補正後出席率 12名中 11名 91.67%

■ニコボックス

羽島 R. C

岩田勝美……始めて伺います。

ホームクラブ

平野泰治……岩田様本日はどうもありがとうございます。卓話楽しみにしています。

川岸憲博……岩田様、遠路はるばるありがとうございます。卓話楽しみにしています。

宮崎弘夫……地区職業奉仕委員長岩田勝美様ようこそ、お話しを楽しみにしております。

遠藤龍夫……ようこそお詣りいただきました。鈴鹿ベイロータリークラブが良き年でありますよう祈念いたします。

磯部弘生……岩田委員長、本日はよろしくお願いします。

中野 強……年末例会お疲れ様でした。皆様に預かったお金の残りを入れます。

中村 悟……岩田様残雪ののこる鈴鹿にわざわざお越し下さいましてありがとうございます。卓話楽しみにしています。

■例会 / 講師例会 / 奉仕部門・職業奉仕担当 磯部弘生会員

私の職業奉仕感

第 2630 地区 職業奉仕部門 委員長 岩田勝美

私の会社はスマートフォンの基板に何百と言う IC チップを装着するロボットの部品。東京スカイツリーの免振ダンパーの制御部の精密部品や航空機部品も作っています。



職業奉仕という言葉の矛盾を解くには「奉仕」という言葉を「人を喜ばせること」と考えると分かりやすくなります。He profits most who serves best 「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」と訳されていますが、profits は儲かるという意味があるので直訳すると「最もよく人を喜ばせたものは最も儲かる」となります。

私の職業奉仕は「モノを作ることによって困りごとを解消する」だと思っています。要求精度や形状の難度が高く、他の会社では出来ないという「困りごと」を引き受けて結果を出す事を繰り返しているうちに業界で知られるようになり、お蔭様で右肩上がりが続けていた2008年の9月、リーマンショックが起きました。2009年初頭から仕事量・売上が25%まで落ち、その時出来たのが電動伸縮杖「伸助さん」です。中小企業が世界初の杖を作ったと、マスコミで紹介され、ヒット商品になりました。その時 B to B(会社対会社・企業間取引)では聞くことの出来ないお客さんの喜びの声を直接聞くことが出来、職業奉仕を実感したことをよく覚えています。

滅私奉公※1や三方善し※2はロータリーのモットーとは一寸違います。Service above self 超我の奉仕は「我」が有るから出来るわけで「滅私」では超我にはなりません。三方善しは売り手善しから始まるのでまず自分や家族が良くなければいけないから職業奉仕とは違います「買い手善し」から始まるべきです。

RIは人道奉仕団体へと舵を切ろうとしています、最近職業奉仕の重要性に気付いてバランスを考える様になったそうです。職業奉仕の一番の学び場は例会場であり、出席することが最も大事なことです。

※1 滅私奉公；私利私欲を捨てて、主人や公のために忠誠を尽くすこと。

※2 三方よし；「売り手」と「買い手」がともに満足し、また「社会貢献」もできるのがよい商売であるということ

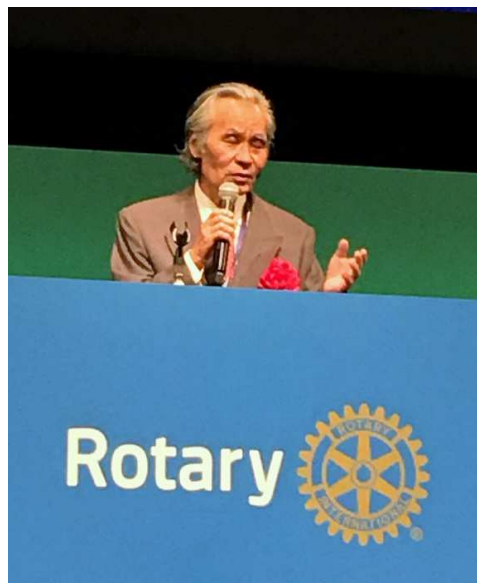
国際ロータリー第2630地区

地区大会基調講演「Rotary—かえりみて、あすを考える」(抜粋)を振り返って

国際ロータリー第2680地区 パストガバナー 久野 薫(神戸東)

■ What's Rotary?

かくして”ロータリーって何?”と問いかけてみたくなるほど多様であります。ゴルフのジョン・ヘンリー・テラー(全英オープン5回優勝の19世紀末、英国近代ゴルフ界の3人の巨人の一人)は「このゲームを単なる娯楽とみなすものにとって、ゴルフは永遠の謎となるであろう」と語りました。「この私的な社交クラブを、単なる親睦、友愛だけのクラブとみなすものにとって、ロータリーは永遠の謎となるであろう」。と言い換えることができます。一言にして曰く、言い難しであります。従ってこの問いかけは、変貌してやまないロータリーにあって、今後も続いていくであろう、古くて新しい永遠の疑問なのです。



この度、刃田ガバナーが地区の会員の皆様に問いかけられた”ロータリーって何”によって、この地区の皆さんのロータリー観がどのようなもので形作られていることを知ることは楽しみです。

■ 戦後の職業奉仕観の東西の温度差

2007年からクラブ定款第5条に4大奉仕部門(現在は5大)の条項が掲載されるようになりました。そこには、各奉仕部門におけるクラブのとるべき哲学的大体及実地的基準(Philosophical, Practical framework)が定義づけられています。その中において“Ideal of Service”の文言を使って定義づけされているのは、唯一、職業奉仕の定義だけです。他の奉仕部門は全てが実地的な側面だけで定義されています。つまり、奉仕と言えば須らく善だと錯覚し、職業奉仕以外の奉仕部門の定義は、理論無き奉仕の広がりであります。

然しこの度、職業奉仕の活動の定義は、あまりにも哲学的基準の定義に偏っているとして、先の2016年の規定審議会で、職業奉仕活動において会員が採るべき実地的、具体的活動を加えるための制定案が日本から提出され、採択されたことは皆さんの記憶に新しいところがあります。変更点を一言にして表現すれば職業上のスキルを社会に役立てる、ジョン・ジャームRI会長の言葉を借りれば“Using our jobs to Serve”であります。

このようなわけで職業奉仕は、今の今まで哲学的枠組みで定義されていたものが、職業上のスキルを利用した社会奉仕活動という、実地的側面で定義され薄っぺらなものになってしまったのです。

2011年から職業奉仕に関する声明文としてロータリアンの行動規範が手続要覧に掲載されております。当初は8か条、2014年1月RI理事会決議で5か条になりました。その中でも職業奉仕を職業上で得られたスキルを利用して社会に奉仕すると定義づけられており

ます。また他に“事業または専門職上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を同輩ロータリアンに求めない”があります。この条項は 2014 年 10 月に、RI 理事会決議で削除され、4 か条になりました。仄聞するに、ラビンドラン RI 会長エレクトが「ロータリアンに特典を」の精神で、提案し RI 理事会がこれを承認したのです。もしこれが事実とするならば驚くべきことであり、RI 会長と言えどもこの程度の認識なのです。このことは相互扶助の復活、強調であり、真の職業奉仕の後退ではないでしょうか。もしロータリアンに特典があるとすれば、それは、例会において自己研鑽、切磋琢磨して得られる、実力の涵養と人格の形成のみのはずではありませんか。

戦後の RI は奉仕哲学の追求ではなく、奉仕活動の実践重視に傾斜していきます。これは飽和状態に達した会員の多様性化から来る価値観の多様性がもたらしたものであります。しかし“奉仕の理念”の軽視は、とりもなおさず、職業奉仕の軽視であります。ジョークにある、世界に無いものが四つある。①アメリカ人の哲学者②日本人のプレーボーイ③ドイツ人のコメディアン④イギリス人の作曲家であります。アメリカ人にとって哲学は苦手の様です。奉仕の理念は哲学なのです。

かくして欧米の戦後における職業奉仕は、職業上のスキルを利用した社会奉仕活動であり、医者が無医村に行って医療相談、治療を行う活動、弁護士によるへき地での法律相談、職場訪問、若者の就職支援、職業相談等々、我が国では社会奉仕と考えられる奉仕が職業奉仕と考えられ、哲学的ではなく、实际的側面として、事例報告の形でしか語られなくなっているのです。一方我が国では、戦前と同じように、職業を営む行為自体が奉仕でなければならないのです。義を以て利する、先義後利の精神なのです。

わが国の古典的な職業奉仕観は、今や、お呼びではないのです。世界の標準から、かけ離れた日本特有の職業奉仕観であります。

■ 戦後の日本のロータリー

RI が奉仕哲学の追求ではなく、奉仕活動の実践に大きく傾斜した原因は、もはや RI は倫理運動体ではなく、NPO 法人に変貌しようとしているからです。日本のロータリアン数は 1996 年 13 万人をピークに右肩下がりに減少し、2007 年には 10 万人を切り、インドに抜かれ、2014 年には 9 万人を切り、現在 87000 人台であります。会員増強を喫緊の課題として、やみくもに会員増強を図った付として会員の質は急速に低下してきたように思われます。そしてロータリーに対する情熱は急速に冷めたものになりました。

①奉仕哲学の追求に熱心でもなく、かと言って奉仕活動の実践に熱心でもない、適当に財団に寄付することによって、奉仕を糊塗する、ひたすら楽しい、楽しいのロータリー、楽しくない、楽しくないでやめていくロータリーになってしまっています。②RI と正面から相対することもなく、クラブ自治権と称して何もしない自治権を振り回し、ますます RI から遠ざかってきております。1983～84 年度 RI 会長、ウィリアム・スケルトン氏は“ロータリアンとしての最悪の罪は、憎しみでも何でもない、同じクラブのロータリアンのやることに無関心であることである”と語りました。DLP, CLP と言っても関心もなく、理解もし得なくなった現状があります。無関心、無責任、無気力、無感動は組織を内部から崩壊させるのです。